

事務事業名		気仙地方林業振興協議会参画事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05: 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間		予算科目				
	施策名	20: 産地化をめざした農林業の振興					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01: 林業の振興					01	06	02	01	11
根拠法令											
所属	部課名	農林水産部農林課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和59 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	林業係	電話	44-2112							
			内線	128							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・気仙地方林業振興協議会は、気仙地区2市1町及び林業団体、学識経験者等この会の趣旨に賛同するものにより組織されている。 ・協議会では、気仙地域における林業の総合的な振興と効率的な推進を図り優良な林業地域として、その発展を期することを目的に、林業振興施策の推進に關すること。緑化の推進に關すること。林業の改良普及に關すること。林業団体の強化育成に關すること等の実現に向けた事業を行っている。 ・構成団体として、協議会に対して、負担金を拠出している。						全体計画(期間限定複数年度のみ)					
						総投入量 (千円)	事業費内訳	国庫支出金			
								都道府県支出金			
								地方債			
								その他			
								一般財源			
								事業費計(A)			0
						人件費	正規職員従事人数				
							延べ業務時間				
							人件費計(B)			0	
							トータルコスト(A)+(B)			0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	単位
前年度実績(前年度に行った主な活動)	→	ア 研修事業開催回数	回
・協議会が主催する総会、幹事会、事業等への出席		イ 木材普及啓発事業開催回数	回
・協議会に負担金を拠出している。		ウ	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
前年度と同様。		名称	単位
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	→	カ 協議会構成団体数	団体
気仙地方林業振興協議会		キ	
		ク	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	→	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
負担金の納入により、協議会の運営が健全なものとなり、気仙地方の林業の振興が図られる。		名称	単位
		サ 研修事業参加者数	人
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		シ 木材普及啓発事業参加者数	人
林業生産物が安定して高く売れる。		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
投入量	事業費内訳	単位						
		千円						
		千円						
		千円						
		千円						
	人件費	千円	80	40	40	613	613	613
		千円	80	40	40	613	613	613
		人	1	1	1	1	1	1
		時間	3	3	3	3	3	4
		千円	12	12	12	12	12	16
トータルコスト(A)+(B)		千円	92	52	52	625	625	629
活動指標	ア	回	4	4	7	7	7	7
	イ	回	4	4	5	5	5	5
	ウ							
対象指標	カ	団体	19	18	22	22	22	22
	キ							
	ク							
成果指標	サ	人	402	157	150	150	150	170
	シ	人	781	191	200	200	200	350
	ス							

事務事業ID	0550	事務事業名	気仙地方林業振興協議会参画事業
--------	------	-------	-----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

気仙地方における林業を総合的な振興と効率的な推進を図り、優良な林業地域とすることを目的に、昭和59年に設置された。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

市民の森林に寄せる期待は、より多様化しており、森林の機能をより多面的に発揮させるために、県、市町村、森林所有者、林業関係団体等が一体となって取り組むことが必要となっている。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

特になし。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 協議会への参画を通し、林業の活性化と地域材の長期的かつ安定的な供給体制の整備が可能となり、市の林業振興に寄与することとなるから、政策体系に結びつく。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 協議会は、気仙地区2市1町及び林業団体、学識経験者等この会の趣旨に賛同するものにより組織されている。市町村は、この協議会への参画を通し林業振興を図ることになるので、関与は妥当。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 協議会に負担金を納入して運営を支えることで、気仙地方の林業の振興に結びつくこととなるので、対象、意図ともに適切である。
有効性 評価	成果の向上余地	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] ・引き続き林業振興につながる有効な事項を協議していくためにも、継続して事業に参画する必要がある。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] ・協議会は、気仙管内の林業団体が相互に連携し、一体となった取り組みを強化し、地域林業の発展を期すために事業展開しており、事業への参画は必要。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない [理由] 気仙地区に、目的が同じで林業関係者を構成員とした組織がない。
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 事業費は負担金のみで、有効に支出されており削減できない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 負担金納入事務にかかる担当職員の人件費であり、削減できない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 受益者負担は発生しないし、事業の参加を広く住民に呼びかけている。

事務事業ID	0550	事務事業名	気仙地方林業振興協議会参画事業
--------	------	-------	-----------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 気仙地方林業振興協議会の会議、事業に参加し、林業振興に向けての情報共有を図った。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 気仙地域の林業振興を推進するためにも、継続して事業に参画する必要がある。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	農林課長
-------	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
☒ 一部記述不足のところがある
☐ 記述は十分なされている

評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

適切な事務執行がなされている。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持
 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)

(上記方向性に対する具体的な内容)

現状どおり継続して事業を実施する。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項